

「サクラ咲く」

今月 8 日、仕事を午前中だけ休んで娘の高校入学式に参加してきた高野です。私の希望どおり公立高校に受かってくれた親孝行な娘です。しかも今年は寒の戻りもあって、桜も満開に近い状態。最高の門出を祝ってくれました。

今回の受験はハラハラドキドキの展開だっただけに、喜びもひとしおでした。(たぶん、合格ラインギリギリだったのではないかな？と思ってます。)

というのも昨年の秋から冬にかけて成績がさほど伸びる訳でもなく、さあここからという 12 月上旬にマイコプラズマ肺炎に罹る始末。それが年明けまで続いたのですから、体力的にも苦しかったことでしょう。また時を同じくして、塾で一番親身に指導してくれていた M 先生（九大の女学生）が退職。何かとトラブル続きだったのです。

ところが、私立受験も近づいて来た 1 月下旬、退職した M 先生が、無償で授業をさせて欲しいと申し出てくれたのです。ウチの娘とその友達の 2 人に教えたいと。

私は、M 先生の退職事由を家内づてに聞いて唖然としました。塾長（経営者）の雇用条件に塾の先生たちはみんな不平不満だったというのです。それを声にした M 先生は塾長からにらまれ、塾に居づらくなったのだとか・・・。

しかしながら自分が指導していた子ども達を残して、塾を辞めたことが気になっていたというのです。自分の娘に良くしてくれたという有難さ以上に、今どきの大学生がアルバイトとはいえ、責任感から無償授業の申し出をしてくれたことに、何とも言えない感動を覚えました。大げさかもしれないけど、この国の若者も捨てたもんじゃないな～なんてことを感じたのです。

しかも M 先生は友人も誘って、科目を分担し、九州大学の学食に娘たちを呼んで、3 月の公立の受験日まで数回にわたって無償授業をしてくれたのです。

その甲斐あって、娘もそして娘の友達も同じ公立高校に合格したのです。

娘たちからの合格発表を LINE で送ると、M 先生たちからも歓喜の LINE が。

我が娘ながら「持ってるな～」と感じた次第です。

頑張って合格した喜びだけでなく、今回の塾騒動を憶えていて欲しいな～と思ったのです。自分の力ではなかったことを。自分たちを支えてくれた人がいたことを忘れないで欲しいのです。そして将来、M 先生と同じ立場になった時、同じような行動がとれる人間になって欲しいなと思った出来事でした。